

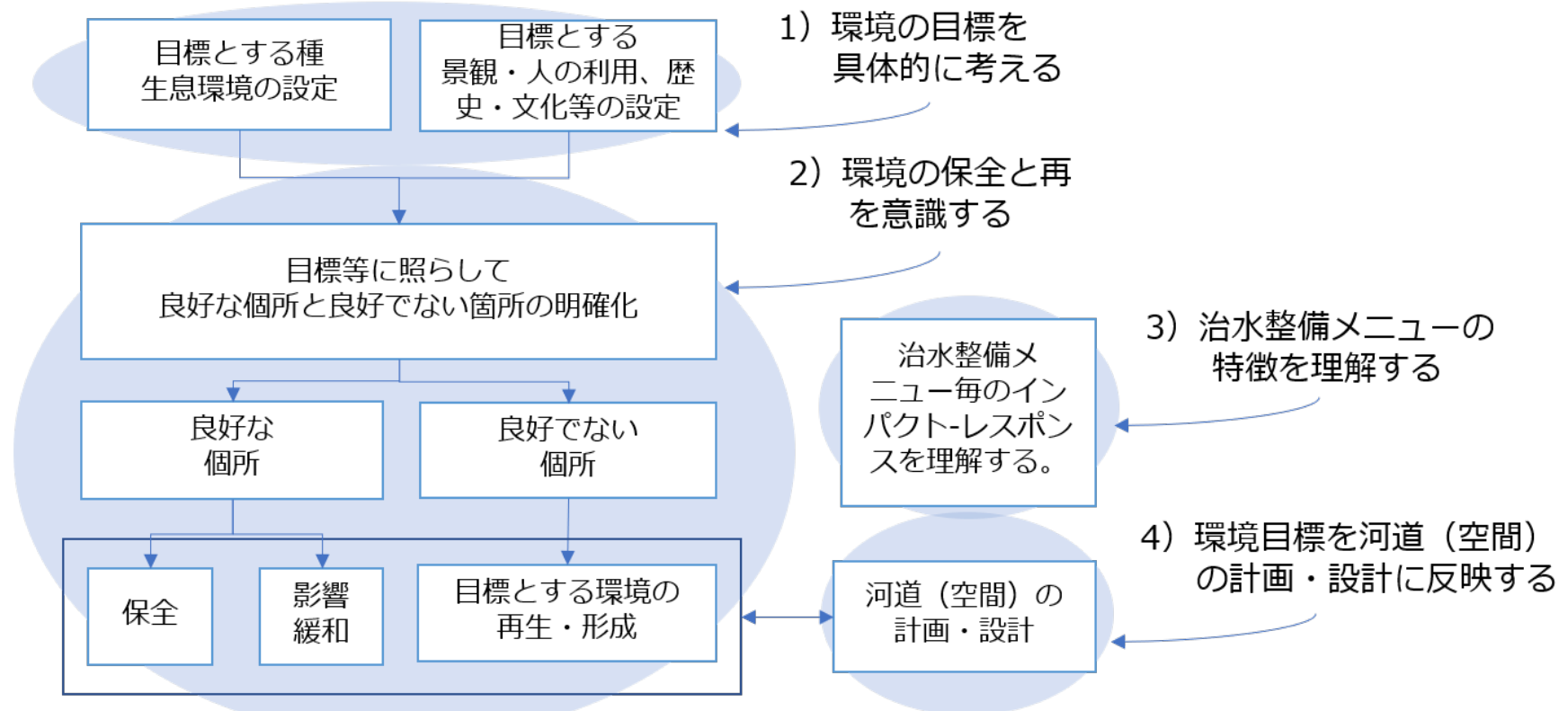
Q

環境と調和した治水事業を実践するための考え方を教えてください。

A

環境の目標を具体的に設定し、治水メニューの特徴を理解した上で、保全と再生を組み合わせながら河道の計画・設計を行う

Answerの概要と基本的考え方





環境と調和した治水事業を実践するための考え方を教えてください。

Answerの詳細

1) 環境の目標を具体的に考える

- 河川整備計画を念頭に置きながら、河川全体についての環境目標を明確にし、具体的な計画・設計に落としこむ
- 地域住民を含む多くのステークホルダーの意見を聴くことが重要
- 自然環境については、具体的に保全・再生すべき生息環境はもちろん、保全すべき種や群集・群落を設定することが重要である。

2) 環境の保全と再生を意識する

- 良好な環境が残されている箇所は保全が基本
- 河道改変等によって影響を受ける可能性がある場合には影響の緩和を図る
- 環境の向上が必要な個所については河道改変等の方法を工夫することにより生息環境の再生、河川空間の形成を目指す



環境と調和した治水事業を実践するための考え方を教えてください。

Answerの詳細

3) 治水整備メニューの特徴を理解する

- 各整備メニューのインパクト-レスポンスの関係を直接改変・直接改変以外、工事実施段階・共用段階等に分けて整理する

4) 環境目標を河道（空間）の計画・設計に反映する

- 河道計画・設計において河道（空間）を設定する際には長期的な河道の維持も視野に入れる必要がある
- 河川環境は時間とともに変化し、ある程度の時間を経て環境目標に近づくという考え方が、設計時にも不可欠である
- 環境に関しても、設定した目標を具体的な河道（空間）の計画・設計に反映することが可能となってきた
- 例えば、魚類を対象とした場合には、種とその生息環境との関係性はある程度整理されてきており、目標とする種が決まれば、河道内で保全・再生すべき生息環境が明確となる